



# OMIX News Letter

## 海洋混合学の創設

物質循環・気候・生態系の維持と長周期変動の解明

No.10 2019.10

### ● OMIX活動報告

#### 第4回海洋混合学 OMIX YMR サマースクール報告

海洋混合をキーワードに多様なバックグラウンドをもつ若手研究者の相互理解と交流を目的として、8月25日～27日に静岡県・浜松市にてサマーセミナーが開催されました。OMIX最終年度の今年は、物理・化学・生物学の各分野から合計31名の方にご参加をいただき、14件の口頭発表と10件のポスター発表が行われました。領域内外へ幅広くお声掛けのご協力をいただいたこともあり、例年以上に海外出身者の参加が多く、国際色豊かなイベントになりました。

レクチャーとして、海洋研究開発機構の原田尚美先生に「北太平洋の海洋低次生態系：その変動機構の解明」、東京大学の羽角博康先生に「熱塩循環のイロハ」、京都大学の吉川裕先生に「海洋表層における混合過程」、東京大学の東塚知己先生に「海洋混合層厚の変動が気候変動に果たす役割」、また特別講演として、韓国延世大学のNoh Yign先生に「The route to phytoplankton spring bloom simulated by Lagrangian plankton model」のお話を聞かせていただきました。第一線で活躍される先生たちから、若手研究者へのメッセージが込められた熱いご講演をいただき、皆興味津々で聞き入っていました。それに続き、若手からも活気溢れる研究発表が行われ、夜の部まで含めて時間を忘れて議論に花が咲きました。以下は今年度幹事からのコメントです。

●九州大学・大貫陽平：開催地の浜名湖畔は、東海道沿線ながら空港から距離があり、やや交通の不便な場所でしたが、それでも全国から30名を越える方にお集まりをいただきました。現地では、奥浜名湖の温泉と特産のうなぎを始めとした宴会料理にご満足いただけたとの声が多く聞こえ、幹事として安堵の気持ちでした。レクチャーの先生には、大変お忙しい中、針を縫うようなスケジュールでご参加をいただき、その熱意に満ちたお話が、私たち若手研究者への刺激になりました。若手の発表・議論も活発で、さらに懇親会では、各自が持ち寄った差し入れの力も借りて、様々な話題で世代を越えて盛り上がりました。本セミナーを通じて生まれた縦と横のつながりが、ポストOMIXの原動力になればと思います。改めまして、セミナー参加者のみなさま、開催にあたりサポートをいただきましたOMIX総括班の方々、ともに運営を進めてきた周さん、大城さん、阿部さんに、この場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございました。

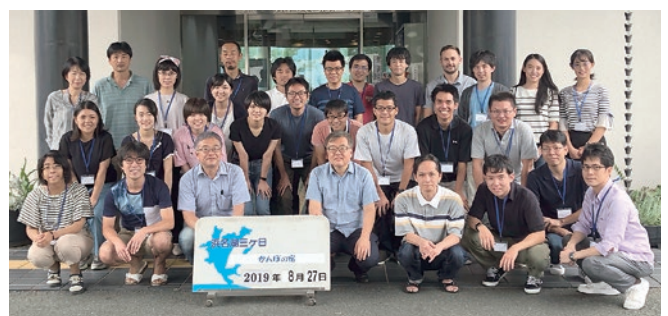
●北海道大学・周宏偉：It is my honor and pleasure to have the chance to be a part of OMIX summer school. During the process of holding the summer school, I learned a lot of details not only in Japanese communications but also the essential consideration for the participants. I really love the summer school of OMIX, it was the first time meeting of my research career in 2017, and I met a lot of top researchers and students since then. Although it's sad to say this year would be the last time of summer school, by the inclusive of diversity, it brings me a vast scope of oceanography, which is invaluable. Thank you for all your support.

●愛媛大学・大城一輝：私は今年で3度目の参加でしたが、相変わらず和やかで賑やかな会でした。今年度も各分野の著名な先生方から若手研究者まで、多くの方々に参加していただき充実したサマースクールでした。サマースクールの醍醐味である異分野との交流も活発に行われ、口頭発表・ポスター発表の時間は活気に溢れていて、非常に勉強になりました。夜の懇親会でも多くの方々から興味深いお話などを聞かせていただき、刺激をもらい続けた濃い3日間でした。サマースクールは今年度で終了しますが、この会で築いた関係は今後も大切にしたいと思います。

●北海道大学・阿部佑美：最終年のOMIXサマースクールに幹事として参加できたことを嬉しく思います。物理、化学、生物といった分野に縛られない集まりで、多くの知識や繋がりを得ることができたのではないかと思います。どの講演・発表も非常に勉強になりましたし、昼間だけでなく夜も参加者の皆さんの熱意がひしひしと感じられ、非常に有意義な会でした。私自身、先輩研究者の方々に相談に乗って頂いたり、助言していただいたりして大変有難かったです。最後に参加者の皆様、総括班の皆様、ご助力下さった皆様、纏め上げてくださった大貫さん、ありがとうございました。



2019年度幹事の皆さん&領域長



サマースクール参加者集合写真



●調査航海関連

- 航海：Baruna Jaya 観測航海  
 期間：8月  
 目的：マナドーマカッサル(インドネシア)、インドネシア多島海西部海域(マカッサル海峡周辺海域)乱流集中観測
- 航海：長崎大学練習船「鶴洋丸」航海  
 「亜熱帯海域における窒素固定生物群集とそれに関わる原生生物群集の解明」  
 期間：2019/8/21-8/23  
 目的：熱帯・亜熱帯域から極域までの全球海洋観測から明らかにする海洋窒素固定の総合的理解
- 航海：新青丸 KS-19-16 航海  
 期間：2019/9/27-10/5  
 目的：成層期の東北・北海道沖高気圧渦におけるサブメソスケール現象の構造と物質輸送・漁場形成に関する研究
- 航海：かごしま丸航海 KG1913  
 「黒潮とその源流域における混合過程・栄養塩輸送と生態系の基礎構造の解明」  
 期間：2019/11/6-11/13  
 目的：トカラ海峡におけるサブメソスケール渦と乱流混合が低次生態系に及ぼす影響の解明
- 航海：かごしま丸航海 KG1914  
 「ワシントン大学との共同観測：Kuroshio Interaction with the Tokara Strait Topography (KITTY)」  
 期間：2019/11/16-11/25  
 目的：黒潮と海底地形の相互作用に由来する混合過程、および乱流混合が低次生態系に及ぼす影響の解明
- 航海：白鳳丸航海 KH-19-6 南太平洋および南大洋航海  
 期間：2019/10/29-12/16  
 目的：南太平洋および南大洋の生物地球化学過程の観測研究

●直近の会議・シンポジウム

- 会議：A02-3班 & A03-5班 合同会議  
 日時：2019/10/17  
 場所：北海道大学低温科学研究所
- セッション：PICES-2019 Annual Meeting, S15: POC/FUTURE Topic Session "Advances in North Pacific marine ecosystem prediction", Convenors: Mike Jacox (USA), Fei Chai (China), Jinqiu Du (China), Shoshiro Minobe (Japan)  
 日時：2019/10/16-10/27  
 場所：Victoria, Canada
- セッション：PICES-2019 Annual Meeting, S5 Trends in ocean and coastal ecosystems and their services and its future, Convenors: Shin-ichi Ito, Angelica Peña, Kirstin Holsman, Xiujuan Shan  
 期間：2019/10/16-10/27  
 場所：Victoria, Canada
- セッション：PICES-2019 Annual Meeting, S10 Linking changes in climate, nutrient distribution, phytoplankton ecology, and production of algal exudates in the North Pacific, Convenors: Andrew Ross, Sayaka Yasunaka, Invited speaker: Jun Nishioka  
 期間：2019/10/16-10/27  
 場所：Victoria, Canada
- セッション：Defining the New Frontiers of Ocean Mixing Research, Ocean Science meeting 2020, Convenors; Toshiyuki Hibiya, Naomi Harada  
 期間：2020/2/16-2/21  
 場所：San Diego, USA
- 会議：OMIX最終全体とりまとめ会議  
 期間：2020年3月(予定)  
 場所：未定

OMIX News Letter編集

原田尚美 国立研究開発法人海洋研究開発機構  
 西岡 純 北海道大学・低温科学研究所

問い合わせ先メールアドレス haradan@jamstec.go.jp  
 nishioka@lowtem.hokudai.ac.jp  
 ホームページアドレス http://omix.aori.u-tokyo.ac.jp